

氏名： 富田 淳也

実施国： 鹿児島県

協力活動

(1) 計画通りに実施されましたか？運営面・経理面での変更点はありましたか？

現在、小嶋氏の斡旋により、1 人の視察研修者を受け入れたが、移住にまで至っていない。

海外での活動拠点として、中小企業交流担当である鹿児島大学の小原教授、OB 会長桑山氏、大崎市、中小企業交流協会を中心に、インドネシア、デポック市における環境問題改善プロジェクト活動を展開中である。平成 22 年度 9 月、12 月に現地調査を実施する。

(2) 実施の結果（良かった点、反省点を含めて）

青年海外協力隊での経験を生かして、地域社会にて生きる覚悟を持った人材を募っているが、応募者がほとんどいない。本プロジェクトを通じて、人材確保する方法が一番難しいということが分かった。

このことは、就職と違って、自営業である為だと考えているが、それでも農業者として自立できる人材を募集し続けたいと思っている。

今後、現在展開中である鹿児島大学を中心としたインドネシア、デポック市での環境改善プロジェクトの足固めを行う。このことにより、海外での活動も明確にした形で人材募集を行おうと考えている。

活動を通じて、地域社会だけでなく、農業部門に参入しようとしている企業においても農場長クラスの実力をもった 30 代人材へのニーズがあることが分かった。今後、農業隊員 OV への国内地域ニーズが高まるだろうと考え、光明を見ている。



写真 4 こけけ特産品販売所←

今年度建物が新しくなった。生産者が母体



写真 5 光農園←

個人経営の直売所。個人に出荷スペースがもらえる。

(3) 異国の参加者同士または本人が相互理解を深めたと確信できた場面は？

または実施事業に対する一般の反響は？「協力活動」「調査研究」「海外での研修」

活動を地域に呼びかけはじめるようになり、土地の斡旋だけでなく、地域特産品を作り出すことへの相談が多く持ちかけられるようになった。生産者だけでなく、直売所に収めている弁当屋、食品加工品業者、直売所のレストランなどが一体とならなくては特産品にならないことを啓蒙中である。1個人農家の話に耳を傾けていただけようになった点が地域からの反響であると感じている。